

足立区環境基金審査会

議事録

令和5年7月26日

【環境基金審査会】会議概要

会 議 名	足立区環境基金審査会				
事 務 局	環境部長・荒井 広幸、環境政策課長・加藤 鉄也				
開催年月日	令和5年7月26日(水)				
開催時間	14時00分から16時10分まで				
開催場所	足立区役所 特別会議室				
出席者 (※オンライン参加)	A	※B	C	D	E
	※F	※G			
欠席者	H、I				
会議次第	別紙のとおり				
資 料	足立区環境基金審査会資料				
そ の 他					

(加藤鉄也 環境政策課長)

環境政策課長の加藤でございます。ただいまから足立区環境基金審査会を開催いたします。

今回も昨年同様、会場とオンラインを併用した会議となっております。

ご発言の際は、なるべくゆっくり、はっきりを意識していただきますようご協力をお願いします。

審議を進めるにあたり、オンラインでご参加の委員の方がご意見、ご質問等ある場合は、挙手ボタンでお知らせください。会場参加の委員の方は挙手をいただき、進行いただく会長が発言者を指名いたします。

それでは、A会長、よろしくお願いいたします。

(A 会長)

はい。これまでオンラインで参加させていただいておりましたが、今回は会場に来させていただきました。大変暑く、温暖化の影響を肌で感じているところでございます。よろしくお願いいたします。

それではただいまから足立区環境基金審査会を開会します。本日は、委員定数9人のところ、7人出席しておりますので、会議が成立していることを報告いたします。

また、今回より一部の委員の異動があったとのことですので、委嘱について事務局からお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

はい、事務局でございます。今回、区議会から推薦いただく委員2名のご異動がございました。

委嘱状は机上にご用意させていただいておりますのでご紹介をもって交付

に替えさせていただきます。

まず、D委員です。よろしくお願いいたします。

続いて、I委員ですが、本日は欠席となりますため、審査会前に、直接交付させていただきます。

委嘱状の交付と新委員の紹介は以上となります。

(A 会長)

それでは次に、議事録署名人の指名をさせていただきます。

会場にお越しいただいているC委員とD委員をお願いします。

それでは続いて次第の3、資料の確認、会議公開規定の取扱いについて事務局からお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

それではまず、配布資料を確認します。事前に郵送、またはメールでデータをお送りした資料として、本日の次第、委員名簿、環境基金助成申請一覧、申請書類4者分、評価の考え方と採択の基準(案)、評価シートが4枚、令和4年度一般助成一覧、1件分の報告資料がございます。

続いて、会議公開規定の取扱いについてご説明させていただきます。足立区環境基本条例の規定により、「審査会の会議は公開とするが、議決があったときは、非公開とすることができる。」となっております。

前回までの審査会では、申請内容を評価、審査することは、公開になじまないことや、公開とすることで申請者が傍聴する可能性も出てきてしまうということから、審査に関する部分は非公開とすることを決定させていただいております。今回の審査会においても引

き続き審査は非公開とさせていただくということですのでよろしいかのご確認をお願いしたいと思います。

(A 会長)

ただいま事務局から説明があったとおり、審査会の公開、非公開について決めたいと思います。これまでどおり申請者の報告や申請者との質疑応答までは公開し、その後の審査は非公開にするという方針が良いと思いますが、ご意見などございますか。

今回は書類審査のみなので申請者の報告や申請者との質疑応答はないということから、公開する部分はないという扱いになります。

(異議なし)

それでは、非公開とさせていただきます。

続いて、次第の4、審議の諮問について、事務局からお願いします。

(荒井広幸 環境部長)

はい。本来であれば区長から諮問申し上げるところではございますが、私の方から代理で諮問書をお渡しさせていただきます。

(諮問書 朗読)

よろしく願いいたします。

(A 会長)

ただいま諮問をいただきましたので、今回は4件の申請について審査をしたいと思います。

それでは次第の5、評価の考え方と採択の基準について、事務局から説明をお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

まず、評価方法について説明いたします。評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

申請は一般助成とファーストステップ助成に分かれます。今回は、4件全てファーストステップの申請になります。ファーストステップは書類のみでの審査となります。

次に評価シートをご覧ください。申請者ごとに1枚ずつのシートがございます。全8項目を、5から0までの6段階で評価をお願いいたします。会場でご参加の方は、各項目の評価欄に数字をご記入ください。

オンラインで参加の方は、事前にお知らせした足立区オンライン申請システムの専用入力フォームより、評価入力をお願いいたします。

評価コメント欄には、活動内容と活動経費の視点から、評価する、あるいは評価しない理由、疑問点や条件を付けたいことなどのコメントをご記入、ご入力ください。集計後採択・不採択をご検討いただく際に使用します。

次に採択について説明いたします。集計作業終了後、評価の集計結果とコメントを画面上に公開します。その結果を踏まえ、各申請について1件ずつご確認、協議いただき、採択・不採択を決定していただきます。

採択の目安は全委員の合計が、6割以上、つまり平均が3以上の評価としますが、例えば5割以下の点数を付けた委員がいる場合など、評価にばらつきがある場合は協議のうえ採択、不採択を決定いただきます。また、活動の一部のみ認める、助成金の用途を限定するなどの条件を付けるときは、皆様のコメントなどを考慮して、協議のうえ決定いただきたいと思います。

案件によっては、審査が難しいことも

あるかもしれませんが、公費を使つての助成でございます。専門家、区議会議員、区民それぞれのお立場、視点での審査をお願いいたします。

以上事務局案について説明いたしました。

(A 会長)

それでは、簡単に整理いたしますと、活動内容をそれぞれの項目ごとに5点から0点までの6段階で評価するということでございます。特に意見があれば、自由記述欄に記入していただきます。集計の結果、採択の目安は全委員の合計が6割以上。つまり平均3以上ということになります。平均で出しますが、採点のバラつきが大きい場合などは、委員のご意見を伺いながら決めていきたいと思ひます。このような形ですが、評価、採択について、ご意見などございますか。

(異議なし)

それでは、評価と採択の基準は、事務局案のとおりで進めさせていただきます。

審査に移る前に一点確認をいたします。委員の皆様の中に、本日の申請者と利害関係のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

(挙手なし)

利害関係者なしと確認しました。

それでは、次第の6、書類審査に移ります。

ファーストステップの申請が4件ございます。

それぞれの概要について事務局から説明をお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

はい。配布資料の令和5年度環境基金助成申請一覧をご覧ください。

まず、受付番号1「可愛い衣装をした

子供たちの花畑クリーンパレード」についてです。

こちらの申請は、子どもを対象に、ごみの分別やリサイクルを学ぶきっかけづくりを目的とした取り組みです。ハロウィーンの仮装を廃材を利用し作成、リサイクルを体験し、紙芝居でごみについて学んだ後、パレードをしながらごみ拾いを行い実践的に学ぶといった内容です。

次に受付番号2、「青井駅周辺の環境・樹木の整備と地域の安心安全作りの活動」についてです。

こちらの申請は、青井駅周辺の都営住宅の一角で落ち葉などの清掃を行い環境を整えるとともに、環境をテーマにした作品づくりを近隣の小学校や保育園に依頼し、作品を駅前のフェンスに飾ることで、地域の環境意識の醸成を促すという内容です。

次に受付番号3、「環境浄化石けんの試作品委託製造と、環境意識向上勉強会開催」についてです。

こちらの申請は、環境に良い石けんを試作するとともに、環境意識の向上を図る目的で、勉強会を開催し、地球の再生方法を周知し、環境浄化活動を発信していくという内容です。

最後に受付番号4、「「SDGs」を知ろう！伝えよう！広めよう！」についてです。

こちらの申請は、申請団体が「SDGs」について学び、学校や地域へ伝え広めることで、どのような社会貢献活動が可能か検討していくという内容です。

申請の概要は以上です。

(A 会長)

ありがとうございます。

それぞれについて意見交換を行いたい

と思います。

【評価については非公開】

(A 会長)

これから令和4年度に環境基金助成を受けて活動した一般助成の4件について申請者から活動報告をしていただきます。配布資料の「令和4年度一般助成一覧」をご覧ください。令和4年度の環境基金審査会で採択された一般助成の活動名や活動概要を一覧で紹介しています。

活動報告をしていただきますが、その前に一点、情報を共有させていただきます。事務局からお願いいたします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

はい。一点、情報を共有させていただきます。報告4件目の「再生プラスチックを活用したアップサイクルコミュニティーの実現」についてです。助成の対象となる機器の導入が遅れたことにより、令和4年度内の活動終了が困難となってしまいました。その相談を受け、機器の導入というやむを得ない事情でもあったので、令和5年度に入ってから引き続き行う活動の予定や、効果に関する見込み等の聞き取りを行い、活動終了後の報告内容について確認ができ次第、助成の決定を行うことを、申請者に伝えました。

その後、令和5年4月に活動終了の報告と実績報告書の提出を受け、内容を審査し、助成を決定いたしました。

助成金の予算年度につきましては、区の予算の支出に関する考え方に沿って、令和5年度予算での支出となっております。報告事項は以上です。

それでは、4件の報告をしていただきます。4件すべてが会場での報告となります。おおむね7分程度の実績報告のあと、3分程度質疑の時間を取っております。

すので、ご意見や今後の活動に対する期待などをいただきたいと思います。ご発言したい方は、挙手ボタンまたは挙手でお知らせください。会長からのご指名後、発言をお願いします。

それでは最初の報告者の方にご入場いただきます。

(報告者入室)

準備が整いましたので進行を会長にお願いいたします。

(A 会長)

はい。1件目の報告を7分間でお願いします。終了の1分前と終了のタイミングで事務局からアナウンスいたします。よろしくお願いいたします。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

東京電機大学の高橋でございます。「VR技術による都市部での冠水状況体験システムの実証実験」と題しまして、発表をさせていただきます。

洪水の場合、早期避難が一番でございます。ところが早期避難が浸透しておらず、逃げ遅れてしまい被害が拡大しているということが繰り返されております。多聞に防災訓練等行われておりますが、マンネリ化したり、あるいは他人ごとになってしまうというのが現状でございます。2020年度に環境基金をいただいてシステムを開発いたしました。その後コロナ禍により公開や実験、評価がすべて止まっていたところ、令和4年度に行えることになり実証実験に向けて応募した次第です。

特に気を付けていたのは、システム設計の妥当性です。検証するにあたり、京都大学の専門家に依頼し、妥当であるという結果が得られました。それから区民に公開し、実際に体験していただく実証実験を行いました。そちらをご紹介します。

システムはIT技術の進歩により小型軽量化やワイヤレス化となっております。また、1台のPCで複数人のヘッドマウントディスプレイを操作できるようになりました。

開発した当初は重装備でしたが、気軽に背負えるものになりました。また、ワイヤレスですのでどこでも歩いて行けます。VRで360度見渡して反応するアプリケーションには最適かと思えます。

完成時に、人が安定して歩けるかを実験したデータがございまして、これに習ってシステムを作っております。したがって、身長体重の積が水流の水速を上回ると不安定になってくるという治験がございまして、それを実装して、少しふらふらするような効果を与えています。実際に行ったことは、浸水したらどこまで行くかを可視化するというのを、千住の駅前を重点的に行いました。

実際に3か所を3Dで街を復元して行いました。大学院生が半日で3か所できたので、それほど大したタスクではないと考えています。

浸水していく様子を実際にご覧ください。

専門家によりますと、水がどの方向に向かってどのくらいのスピードで流れているのかを体感できないとシミュレーションの意味がないということでしたので、その点では良いでしょうというお墨付きをいただきました。浮遊物がたくさん流れてくるシミュレーションしてくださいという意見もありましたので、段ボールが流れてくるというシミュレーションも行っています。

水深1.5メートルを超えると、波が起こり、立っているのが困難になります。実証実験の際は、つま先立ちになっている方もいらっしゃいました。

西口と東口を結ぶアンダーパスの部分は、東口に水が付き始めたころには水浸

しになっているということが体験できるようになっています。天井が低いので圧迫感もあります。

電機大学のアネックスの前では、東から西へ向かって流れていることがわかるようになっています。

専門家からは、早期避難が必要になるという危険性を訴える意味では良いでしょうということと、水流の方向がわからないと避難経路もわからないため、検証するために、更にシミュレーションをする必要があるというお話をいただきました。

また、広く公開も行っており、1月18日には足立区の方にも来ていただきました。2月25日には一般区民、葛飾区から来た方もいらっしゃいましたが、そちらに向けてデモンストレーションを行いました。その他構内連携で防災教育の教材を作る話などもあり、色々なところで宣伝をしております。

こちらが区民の方にやっていただいた様子です。ワイヤーがなく自由に動けるため評判が良かったです。アンケートを行ったのですが、地元の知っている風景が出てきたので良かったという声が多かったです。

ありがとうございました。

(A 会長)

それではただいまの報告についてご意見ご質問などございましたら挙手をお願いします。

では、C委員をお願いします。

(C 委員)

私はプレゼンを聞いて基金の審査をさせていただきました。そのときも大変良いと感じましたが、今実際に映像を見させていただいて、とてもリアルにわかりやすく伝わりました。今年で一旦事業は終わるかもしれませんが、区民の方のためにも是非続けていただき、危険の周知を広げていただきたいと思います。あり

がとうございます。

(A 会長)

かなりインパクトのある研究成果で、実際に体験できるということから行動を変えられるだけの強さがあると思います。色々なところで体験会を高校生などにも広げていただければと思います。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

ありがとうございます。頑張ります。

(A 会長)

ありがとうございます。1件目の報告は以上でございます。

(報告者退出)

それでは次の方に入ってください。

(報告者入室)

2件目進栄化成様からの活動報告を7分間をお願いします。終了1分前と終了のタイミングで事務局からアナウンスをさせていただきます。

よろしく願いいたします。

(進栄化成株式会社 進藤浩 氏)

はい。進栄化成と申します。ご報告をさせていただきます。私ども進栄化成は1970年に足立区で創業いたしまして、創業以来プラスチックのリサイクル事業に取り組んでおります。工場から出る設計不良のプラスチックや、ごみと呼ばれるプラスチックを回収して、熱で溶かして固めて米粒くらいの大きさのペレットというリサイクル原料を作ることを仕事としております。こういう事業を営んでいる中で、2009年にエコキャップ運動というペットボトルのキャップを集めてワクチンを送ろうという活動に出会いました。一般の家庭から出た、飲み終わったペットボトルのキャップを集めてリサイクルをして販売したり、苦しんでいる子供たちのワクチン代としてユニセフに寄付しようという活動です。私どもも

2009年からペットボトルのキャップのリサイクル事業に取り組んでおります。

ペットボトルのキャップは、ポリエチレンとポリプロピレンという二種類のプラスチックが両方とも流通していて、見目で判別することが難しく、リサイクルはなかなか世の中の的には進んでいないのが現状でした。私どもも当初は非常に分別方法に苦しんでおりましたが、2011年に赤外線を利用したペットボトルのキャップの分別機というのを開発しました。これによりペットボトルキャップをポリエチレンとポリプロピレンを分別することができ、リサイクルが可能になりました。それと同時に、白い色は色々な色に応用できることから、白いプラスチックと白ではないプラスチックを分けるということを経験に書き込み、一つのペットボトルのキャップをポリプロピレンの白いもの、ポリプロピレンの色をついたもの、ポリエチレンの白いもの、ポリエチレンの色をついたものという形で4種類の分別をすることにより、今まで見分けることが困難でリサイクルが進んでいなかったペットボトルのキャップのリサイクルが非常に容易にできるようになりました。

そこからペットボトルのキャップを皆様から大量に集めることになりまして、足立区の方々にご協力をいただき、現在一日250tくらいのペットボトルのキャップを取り扱っております。

そのペットボトルのキャップの成果物としては、建築材料や自動車の材料などで、産業資材など工業用品となりますため、一般の方々の目にとまらないような、手に触れないようなものに使われていたというのが大半でした。ペットボトルのリサイクル工場を見に行った方々から、ペットボトルのキャップは何になっているのかと聞かれたときも、自動車の材料だとか、建築材料というところで説明はできるけれども、消費者の方には説明し

づらいというジレンマを抱えておりました。

数年前からトイレタリーメーカーさんから、ペットボトルのキャップを使った製品を開発したいという依頼がありました。私どももサンプル提供も始めておりましたが、大手のトイレタリーメーカーさんですと、一つの製品だけでも何十tという材料が必要になります。当然一つの製品を大量に作るので品質的にも安定させる必要があるという要望がありました。今まで私どもはそこまで大きな機械を持っておらず、いくつかの工場のいくつかのラインでそれぞれバラバラにやっていたのを、ご依頼に応えるためには大型の設備が必要であるという結論に至り、環境基金をいただいて、大型のリサイクル押し出し機を導入することになりました。それと同時に3tのものを大量に混ぜることによってその3tは均一になる大型の混合器を導入することになり、大量に安定した品物を供給することが可能になりました。

こちらが今年の4月から製品化した柔軟剤の容器です。白い部分にペットボトルのキャップを使っていただいております。今までは自動車の材料や建築材料など、なかなか人の目に触れませんでした。柔軟剤ですとスーパーマーケットなどの店頭でお子様や女性の方も見る事ができるようになり、今まで何になっていたかわからないからといって参加しなかったような方々も、こういうものになっているんだという形で、今後もより一層ペットボトルのキャップのリサイクルが進むことを期待して今回の活動とさせていただきます。以上です。

ありがとうございました。

(A 会長)

ありがとうございました。

それではただいまの報告について、ご質問等はございますか。ある方は挙手を

お願いします。

では、C委員お願いいたします。

(C 委員)

ありがとうございました。

私の身近な方にもペットボトルのキャップを集めて窓口に寄付をされている方がいらっしやいます。

今回家庭用品にペットボトルのキャップを使ってということでございますので、是非区民の方に周知をお願いしたいと思っております。例えば10月のAフェスタとか、環境フェア等で出店していただいて、実際区民の方がどのようなものになったというのが実感できるような取り組みをぜひお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(進栄化成株式会社 進藤浩 氏)

ありがとうございます。

今現在は足立区の小学校の環境学習ということで、ペットボトルのキャップのリサイクルの仕組み等を1年間で5校から6校くらいに出前事業を行う機会があります。そうした場で出来上がったものをお見せしておりました。従来の工業部品や今回のボトルを持っていくことになっております。Aフェスタ等についてはご案内いただければ検討いたします。

(A 会長)

ありがとうございます。

では次にD委員お願いします。

(D 委員)

月250万t集めていらっしやるということなのですが、去年から自動販売機の横にあるボックスがオレンジ色のボックスに変わりました。清涼飲料メーカーがプラスチックを活用していこうという活動ですが、この250万tはどのように集めてらっしやるのでしょうか。

(進栄化成株式会社 進藤浩 氏)

私どもエコキャップ運動という形で一般の家庭や学校、企業さんで集めたものを私どもの会社に直接宅急便等で送っていただくものもありますし、あるいは遠方の方ですと私どもの提携している運送会社さんを通じて、運送会社さんが回収に回っているケースもございます。あとそれとは別に先ほどスーパーマーケットなどの店頭で、従来からペットボトルや牛乳パック、白色トレイなどの資源回収を行っているスーパーは多いので、ペットボトルの回収を行っている隣にペットボトルのキャップの回収置き場を設けてスーパーマーケットさんで集めているケースもございます。もちろん自治体等のゴミを集めているところでペットボトルを集めた清掃センターさんでキャップだけはずして持ってくるという形もございますので、色々な形で色々な方々に参加してもらっているところでございます。

(D 委員)

ありがとうございます。ペットボトルは誰もが使いますし、自らその環境問題を考える大切な活動の一つなると思えます。そうした会社が足立区にあるということ、私も勉強してまいりたいと思えます。よろしくお願いいたします。

(A 会長)

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

私の千葉にある大学ですけれどもその大学から送っていたこともあります。ペットボトルのキャップを集めると、山のように集まってきます。一旦休止をしましたが、やろうと思うとかなりリサイクルできるものかと思えます。

ありがとうございました。

(報告者退出)

では、次3件目です。よろしくお願いいたします。

(報告者入室)

(東京電機大学 椎葉究 氏)

よろしくお願いいたします。

今回足立区環境基金をいただいて、バイオマス竹を使って食に適したものを作りました。その安全性の結果が出ましたので報告します。

要約としましては、竹はあまり食に適しません。苦みや濁り、安全性の問題があります。そういった問題をなくすために、減圧マイクロ波処理などを行い食べられるようにします。

活動成果としては、食物繊維の構造の緩和で非常に食べやすくなったということ、苦み成分や有害物質が除去されたこと、「食」に適した高繊維資材を比較的安価に作ることが可能になりました。また、小麦粉などと混合して、健康や病気の予防を訴求できる食品の提供が可能になりました。あと安全性評価や機能性食品申請のためのエビデンスの取得ができました。さらに、食物繊維としての付加価値を高めたということです。本日お持ちしたパンは、足立区のパン屋さんで作られたもので美味しいです。また、免疫性を高めるということも今回の試験でわかりました。

それから、腸内環境を改善することも確認されています。また、安全性の検証も行いまして、非常に高い安全性もあるということは第三者委員会に認められております。

食物繊維が豊富なきくらげやおからと比較しても、より多くの食物繊維があることがわかります。

竹の需要を増やしたこと、実用化できるようになってきたことが非常に大きいということを感じております。

ありがとうございました。

(A 会長)

ありがとうございました。

それではただいまの報告について、ご

質問等がございますか。ある方は挙手をお願いします。

大変おもしろい成果が生まれたと思うのですが、今後の展開はどうされる予定ですか？

(東京電機大学 椎葉究 氏)

パンを作っていたいただいた3つのベーカリーがあるのですが、そこ以外にも、足立区の環境基金をいただいているものがありましたと宣伝させていただきたいと思っております。

(A 会長)

はい。ありがとうございます。

では、D委員お願いいたします。

(D 委員)

身体を鍛えている人は食物繊維をとることを意識しておりますし、竹の塚という地名もありますので、足立区のブランディングで、竹って実は食べられるということをして是非足立区事業者さんとコラボをしてください。

東京電機大学さんが面白い取り組みをしているということですのでごく勉強になりました。

(A 会長)

ありがとうございます。

次にC委員お願いします。

(C 委員)

私はプレゼンを聞かせていただいている、すごい効果があったということですね。

私も家でパンを作るのですが、コスト面はいかがでしょうか。例えば売られていて、これだけ食物繊維があれば、料理などにも使えてさらに可能性が広がると思います。そちらのサンプルでおいしくなりますか。

(東京電機大学 椎葉究 氏)

コスト的には、まだきちんと計算してはいないのですが、小麦粉の値段より少し高い程度と認識しております。

(C 委員)

是非Aフェスタなどで、実際に作ったパンなども販売していただければと思います。

(東京電機大学 椎葉究 氏)

現在製粉については、足立区に供給実績のある埼玉県製の製粉業者さんをお願いしており、徐々に供給ができるようになっていくという状況です。

(C 委員)

今後楽しみにしております。

(A 会長)

それでは、時間が押しておりますので以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

(報告者退出)

では、4件目の報告をお願いします。

(報告者入室)

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

よろしくお願いいたします。

まず活動概要です。オランダ発祥のプレシヤスプラスチックという誰でも簡単にプラスチックごみを新しい製品に生まれ変わらせるアップトゥサイクルを取り入れ、東京発の再生プラスチックのコミュニティを立ち上げる。地域で出たプラスチックごみを地域の中で繰り返し再生。足立区の若者の環境意識の醸成を目指します。

活動目的です。再生プラスチックのコミュニティをつくり、地域の子供や若年層を巻き込み地域の環境問題への意識を醸成する。若年層が集まりやすいモノ作りスペースとして開かれた空間を作り、みんなの日常をもっと楽しくする。アップサイクルプロダクトから若年層に魅力

を伝える。

活動内容は、大きく分けて3つのフェーズに分かれています。

フェーズ1が、リサーチと機器の導入。

フェーズ2でコミュニティの構築。若年層も巻き込み、フェーズ3でプロダクトの開発となっております。昨年の8月から始めて、今現在進行中です。

まずフェーズ1ではリサーチと機器の導入。鎌倉でワークショップを体験し、ワークショップの内容やできることを現地のスタッフと一緒に話ししました。機材製作を依頼した、津屋崎ベースキャンプもこの時に知りました。津屋崎ベースキャンプは福岡県にあります。

活動を今も共に行っておりますが、心強いパートナーとなりました。

こちらが実際の様子です。

次にフェーズ2ですが、コミュニティの構築、若年層の巻き込み、ペットボトルキャップの回収を始めました。

回収ボックスを設置してすぐに20名程度の方から600以上のペットボトルキャップが集まりました。現在45Lのゴミ袋に5袋ほど集まっています。

ワークショップへの参加は無料です。このように、お店の一角で楽しくワークショップをやっています。現在までに、約30名の方にご参加いただいております。皆さんに楽しく色々なものを作っていただきました。

フェーズ3ではプロダクトを開発する。新しいものは何が作れるかというのを、我々とワークショップに参加してくれた人たちで可能性を探っております。葉や小物入れを作っています。

再生プラスチックだけではなくて、別のものと混ぜてどんなものができるかという実験をしています。

今後の予定ですが、小学校や児童館な

どにリサイクルボックスを設置、またそれら施設におけるワークショップの実施を考えております。実際に8月2日区内小学校にてワークショップを開催します。

今後は射出成型とって、金型に押し入れてきちんとした模様や形を出すものを導入して、スポーツイベントなどに使っていただけるようなメダル等を作りたいと思っております。あとは、ビューティフルウィンドウズ運動と一緒に何かできたらと思っております。

また、福祉施設とは実際に話が進んでいるのですが、障がいを持つ方々が社会と関われるような、接点を持っていただけるようなものを作っていけないかということをお社福祉法人の方々と準備を行っております。

最後にワークショップの様子をご覧ください。【動画上映】

ありがとうございました。

(A 会長)

ありがとうございました。

それではただいまの報告について、ご質問等はございますか。ある方は挙手をお願いします。

D委員をお願いします。

(D 委員)

ありがとうございました。

先ほど説明のあった令和5年度以降に購入される製品が、美しい製品になる機械を待っているような状況でしょうか。

(加藤鉄也 環境政策課長)

報告させていただいた機器は既に納品されております。

(D 委員)

押し出し機がその機械ということですね。

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。押し出し機は、ワークショップ等に使用します。美しい製品になるための機械は射出成型機です。こちらは、次の段階で福祉施設の方々と一緒にやっというように考えております。

(D 委員)

ありがとうございます。

あと、例えば汚れているペットボトルキャップでも大丈夫ですか。

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

汚れているものだとだめなので、集める段階で洗って持ってきてくださいとお話ししています。たまに汚れているものもありますが、こちらで洗って使用しております。また洗ってお持ちいただいたものも、こちらで洗浄しております。

(A 会長)

ありがとうございました。

かなり具体的に楽しめるワークショップができているということですので、広げていただければと思います。メダル期待しております。

ありがとうございました。

(報告者退出)

【集計後の申請4件を評価(非公開)】

(A 会長)

それでは、今回申請のあった4件について、採択・不採択を取りまとめます。

受付番号1・可愛い衣装をした子供たちの花畑クリーンパレードは採択、2・青井駅周辺の環境・樹木の整備と地域の安心安全作りの活動は不採択、3・環境浄化石けんの試作品委託製造と、環境意識向上勉強会開催は不採択、4・「SDGs」を知ろう！伝えよう！広めよう！は採択となります。

委員の皆様、ありがとうございました。これで本日の審査は終了いたします。審

査結果は、事務局を通じて、区長に答申いたします。答申書については、時間の都合もありますので、会長に一任いただく形で、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、私の方で答申書を取りまとめます。最後に委員の皆様から何かございますか。

ないようですので、事務局から事務連絡をお願いします。

以上